

忍者日本一決定戦

小八重善裕

第2回全日本ミドルオリエンテーリング大会 2013年11月4日(祝)三重県伊賀市

三重県では昨年の全日本スプリントに続く全日本

第2回全日本ミドルオリエンテーリング大会
2013年11月4日(祝)三重県伊賀市

大会結果

M21E

- 1 杉村俊輔 (東北大 OLC) 0:36:18
- 2 小泉成行 (O-Support) 0:36:51
- 3 柳下大 (みちの会) 0:37:01



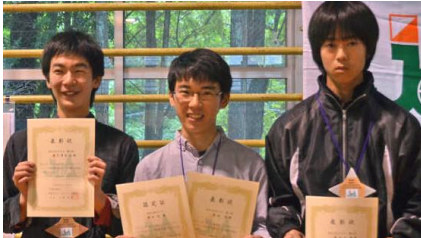
W21E

- 1 宮川早穂 (東大 OLC) 0:39:09
- 2 渡辺円香 (ES 関東 C) 0:40:04
- 3 大河内恵美 (KOLC) 0:42:47



M20E

- 1 深田 恒 (東大 OLC) 0:30:11
- 2 長谷川望 (東海高校) 0:30:46
- 3 濱宇津佑亮 (トータス) 0:31:36



W20E

- 1 五味あずさ (金大 OLC) 0:35:08
- 2 宮本和奏 (京葉 OLC) 0:35:33
- 3 砂田莉紗 (KOLC) 0:37:15



スプリントからミドルへ

三重県では昨年の全日本スプリントに続く全日本大会！全日本ミドル大会のテレインは、元々2012年度全日本スプリント大会のテレインとして調査し始め、地図の図式をJSSOMで描き始めていた場所である。昨年6月にスプリントテレインとしてふさわしくないと判断されて以来、調査をストップしていたが、今年の4月までに地図の図式をJSOMで描き直し、再調査を開始した。

台風の影響

再調査も終わり、7月に1回目の試走会を行った。しかしどのコースも急峻な尾根や沢の上り下りが多く、上位のクラスは軒並み8~9%の登高となりタイムも30%オーバーとなったため、テレインの東中央部を使う形に地図の範囲を広げ、コース長を短くして、9月に2回目の試走会を行った。

2回目の試走会は9月下旬から10月上旬にかけて行ったが、今年度重なる台風の影響で大なり小なりの土崖が増え、地図内の沢を点検し、地図の修正を行った。

運営面に於いても、9月に襲来した台風19号の影響で、会場(野外活動センター)への路線バスアクセス道路の途中が一部決壊し、大型バスの運行(路

線バス)が運行中止となった。

急ぎょ中型バスやマイクロバスをチャーターし、送迎バス運行(JR利用者の対応)を検討しなければならないとなったが、大会開催のおよそ50日前に発生したのは、不幸中の幸いであった。

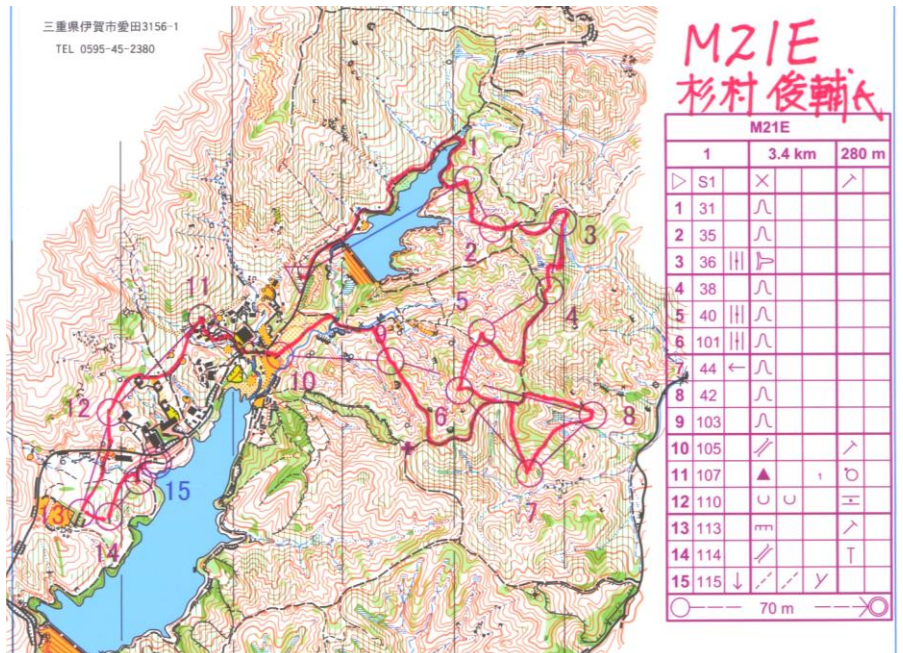
前日に紅葉祭り

大会前日(11月3日【日】)、会場へのアクセス道路途中の「白藤の滝」(景勝地)で地元自治体主催のイベントが開催され、野外活動センターに前泊予定の方々の来場に対する支障を心配したが、前泊者の殆どが愛知 OLC 大会参加後の移動であったため影響は少なかった。

スタートエリアは屋根付き

大会は予定通り10:00スタートではじまった。スタート地区は会場から約500mの、屋根付きのキャンプサイトとした。昨年の全日本スプリント大会のような雨天であっても影響をできるだけ回避出来るための対策である。

しかし、スタート直後の尾根筋に上がる小道は、早朝までの雨の影響を避けられず、半分以上の選手が通過するのに苦労されたようだ。





足洗い場に並ぶ選手の皆さん

地元新聞記者クラブへの PR にご尽力！朝日、中日、毎日、伊勢他の地元新聞に大会開催の記事を掲載いただくよう、お願いする場を設定していただいた。

伊賀市スポーツ少年団指導者への PR にご尽力！早朝までの降雨で結果的には地元の参加者は「0」であったが、事前参加申し込みは数件あり、天気が良ければ参加が期待できたと思われる。

伊賀焼製メダル製作にご尽力！地場産業を生かしたメダルを製作し、上位入賞者に提供したいという当協会の思いに対し、伊賀市教育委員会が主管するシティマラソンの入賞者に授与されているメダル製作者をご紹介いただいた。

手裏剣メダル

各クラスの上位入賞者には、昨年の全日本スプリント大会の時、万古焼のメダルをお渡ししたが、今年の全日本ミドル大会では、忍者の里「伊賀」での開催にちなんで「手裏剣」をモチーフにし伊賀焼で作ったメダルにした。メダルは金属製が良いという意見もあるが、こんなメダルも思い出になるのではないのでしょうか？

(小八重善裕)

コース設定は効率良く

個人コースで使用するコントロール（以下”C”と表記）数を38個とし、その少ない”C”をうまく利用し、他のクラスの選手のラップタイムを比較できるような共通ルートを所々組み込み、Eクラスを目指す選手にとって、Eクラス選手の記録と比較検証できることを狙い、コースセッティングが行われた。

前半タフ、後半気持ちよく

スタートフラッグから1番”C”へのルートは、「田代池」の北東に位置する「大平池」の北側を回るルートと、南側を回るルート、南側尾根筋を使うルート、の3通りのルートを設定し、混雑を分散した。前半は、どのコースも伐採地をできるだけ避けたルートとなるようコースを組まれたが、尾根越し、沢に降りていくルートはどのコースにも組み込まれる状況になった。その結果、早朝までの降雨の影響で、沢の上り降りは誰もが相当苦労され、ストレスになったようだ。フィニッシュしてくる選手の足元を見れば一目瞭然であった。そのストレスはある程度予想されたので、後半は気持ち良く駆け巡るコースを組み込むことをコースセッターにはお願いした。



コース後半の緩斜面を疾走する選手

携帯電話が繋がらない

当トレイン内は携帯電話がほとんど繋がらないため、ホンダ技研鈴鹿製作所無線部OBの方々へ前日のチャーターバス運行、および当日の大会運営に向け、事前に無線の繋がる場所を確認していただいた。(JR 柘植駅や JR 新堂駅⇨大型バス止め地点⇨大会会場、また大会会場⇨スタートエリア、大会会場⇨トレイン内救護地点)

しかし、送迎バスの運行においては、運行ルート上で対面通行できない箇所があり、バスが停滞し危うく送迎に支障をきたしそうになった。会場からバスが出発するとき中間地点の担当へ、会場に向かって行く自家用車を待機していただく措置を取って頂くよう、連絡することをきめていなかったためである。(今後のノウハウの一つになった)

名古屋大学の皆さんが協力

大会終了後、自家用車駐車場としたグラウンドから出ていこうとする自家用車がスリップし困っているところ、名古屋大学の学生の方々が泥濘の中、車を後押しして脱出させていただいたと聞きました。大変ありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。

スポーツ振興課のバックアップ

地元町づくり協議会との調整にご尽力！大会会場内で伊賀市特産のお土産や巻き寿司、お菓子などの販売を行っていただいた(地元の皆さんにオリエンテーリングを認知していただくことが狙いでもある)

